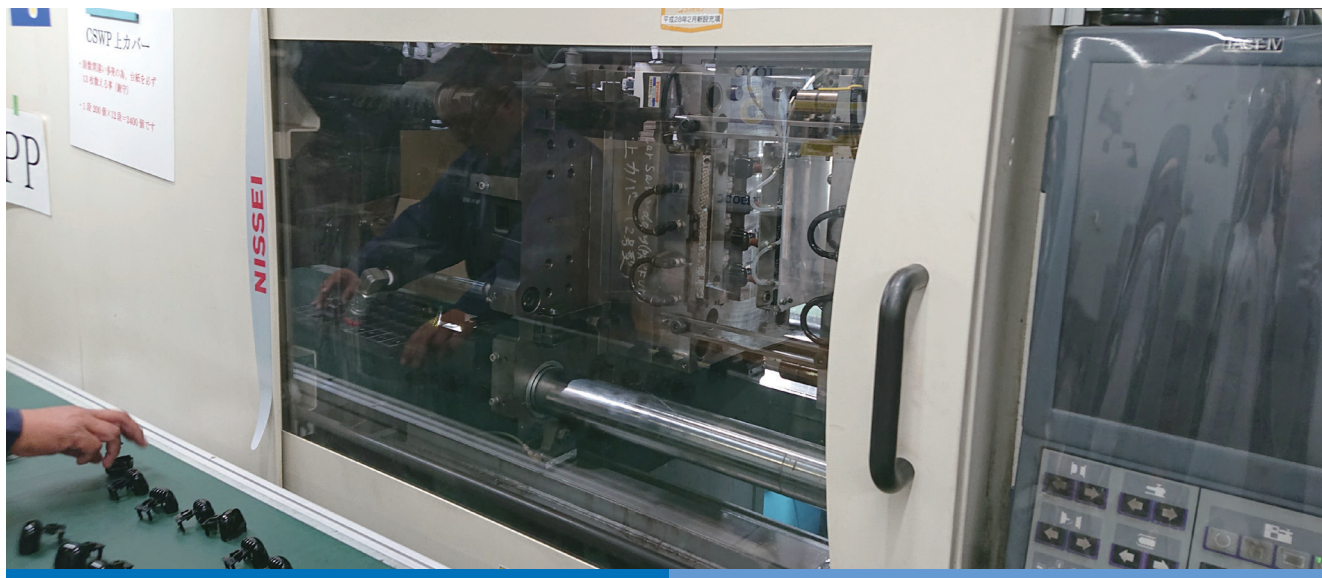


■ 平成26年度

梅本樹脂工業株式会社



大和茶葉で抗菌性を付与した 複合プラスチック日用品の製造技術開発

■ 事業のきっかけ・背景

当社は長年、大手企業の下請けとして完成製品の一樹脂部品を製造していたが、下請け依存体質からの脱却は経営課題であり、他社との差別化、自社独自の付加価値製品の開発など、独自営業のあり方を模索していた。

そんな折、地域異業種研究会メンバーより、地域ブランド「大和茶」などの焙煎・製造工場で飛散し、廃棄される「茶葉」の有効活用について相談を受け、茶カテキンの話題性に着目。樹脂と茶葉を混ぜ合わせた付加価値製品化を計画し、試作・開発を行うこととなった。



■ 事業の概要・成果

茶葉含有成分であるカテキンは、その抗菌作用や茶の香りなどが注目されている。その性質を再現する為、粉末化した茶葉と樹脂材料の適正配合比率の確立を目指し、お茶缶セット用のかご・茶筒の試作を行った。

試作工程においては新型の射出成形機を導入し、材料の配合成形性向上、樹脂材料・茶葉を含むその他原料の混練性を改善することができた。

抗菌性検証では満足のいく評価を得る事ができず今後の課題となったが、茶葉の粒が見えるデザイン性や、茶の香りなどが高評価を得たため、本事業において、一定の成果を得る事が出来たと言える。

試作品は今後量産化し、更なる改良を続ける。



今後の方針、次の目標など

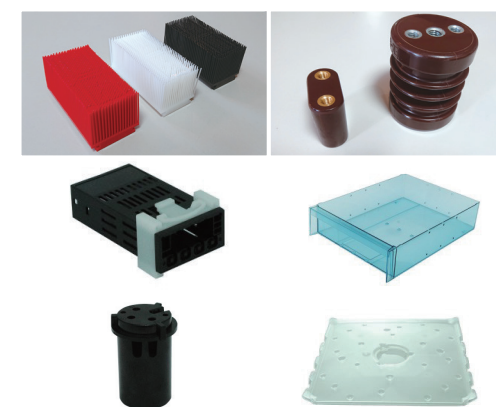
過去には「わさび」「和紙」「外れ馬券」など、特殊な原料の配合を試みましたが、本事業で確立した「茶葉」配合樹脂は非常に汎用性が高く、あらゆる日用品やノベルティへの転用が可能だと考えており、メーカーと協力しながら、かご・茶筒以外にも新製品の企画立案・販路開拓を進めています。

昨今の少子化でプラ玩具など子供市場は縮小していますので、介護施設向けを含めた高齢者市場を見据えています。どの市場であっても「プラ製品＝安い」という絶対的なコスト感が根付いているので、いかに低コストで関心を惹ける製品・ストーリー設定を作れるかが今後の課題です。



代表取締役社長 梅本 和彦

企業概要



代 表 者 名	代表取締役社長 梅本 和彦
設 立 年	1970年4月
所 在 地	〒635-0051 奈良県大和高田市根成柿195
T E L	0745-23-1578
F A X	0745-23-5188
ホームページ	http://umemotojyushi.com/
資 本 金	1,000万円
従 業 員 数	40名
事 業 内 容	熱可塑性・熱硬化性、 各種プラスチック製品、 プラスチック塗装、FRP製造販売、 金型設計製作販売

当社は1962年創業以来、半世紀以上にわたってプラスチック成形業として、熱可塑性樹脂製品・熱硬化性樹脂製品、各種金型など設計から成形・組立まで、顧客ニーズに合わせて対応し、リサイクル材を使った熱可塑性樹脂による学童用教材を主力製品とする傍らで、熱硬化性樹脂による碍子製造など、多分野多品種の製品を製造している。

特に熱可塑性樹脂で透明（クリア）品に対応できる点が特長。また、県内で唯一、熱硬化性プラスチックで船舶・鉄道関係の製品を製造しており、熱可塑性・熱硬化性の成形を行えるのは県内でも当社を含め2社のみである。